



グランドオープン記念事業

展覧会

あしたのおどろき

交流プログラム

【同時開催】ひらく、つながる

東京都渋谷公園通りギャラリーは、施設の改修工事に伴う約2年間の休館を経て、2020年2月8日にグランドオープンします。このたび、グランドオープンを記念した展覧会と交流プログラムを開催します。

展覧会では、誰の日常にも潜在的にあるおどろきや発見といった体験をテーマとし、アール・ブリュット*等のさまざまな作品を紹介します。

ひとつの作品を見て、作家の目や手の動きをなぞると、これまで自分が見ていた世界からわずかにはみ出すような、小さなおどろきや不意の発見に出会うかもしれません。そうした体験は、私たちのものの見方を少しずつ変えていきます。

動物や日用品、風景といった身のまわりのものを独自の色やかたちで表したり、ドローイングや油彩、刺繍、アプリケなど身近な素材と技法を使って想像を超える表現を生み出したり、いままで意識を向けなかった空間の存在に気づかせてくれる作家たち。その作品は、当たり前だと思っているものの見方を揺さぶり、そういった体験を朗らかに、あるいは時に鋭く際立たせてくれます。さまざまな作品との交わりを通して、日常ことさら注目されないものや行為にあらためて光があたり、きょうとは違った世界が新しく開かれることを願います。

* アール・ブリュット (Art Brut) は、元々、フランスの芸術家ジャン・デュビュッフェによって提唱されたことばです。今日では、広く、専門的な美術の教育を受けていない人などによる、独自の発想や表現方法が注目されるアートを表します。

展覧会概要

展覧会名：「あしたのおどろき」

会期：2020年2月8日（土）－4月5日（日） 11:00－19:00

休館日：月曜日（ただし、2/24は開館）、2/25

会場：東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1、2

入場料：無料

出展作家：小笹逸男、小林勇輝、舛次崇、末永史尚、HIROYUKI DOI、塔本シスコ、西岡弘治、nui project、藤岡祐機、デニス・ホリングスワース、松岡亮、丸木スマ、山本純子

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 東京都渋谷公園通りギャラリー

作品と作品のあいだにもおどろきがある！

ふたつの展示室をゆるやかにつなげた会場では、随所にもおどろきが用意されています。小さな空間を最大限に活かした動きのあるつくりの中で、まるで散策するように作品のあいだを歩いて展覧会を楽しむことができます。

<会場構成：dot architects>



関連イベント

■ ギャラリー・クルーズ

出展作家の説明を聞きながら、展示室を巡ります。

日時：2020年2月8日（土）13:00 -14:00
3月29日（日）15:00 -16:00（事前申込不要）

■ 学芸員によるギャラリートーク

当ギャラリーの学芸員が作品解説を行います。

日時：2020年2月22日（土）、3月15日（日） 15:00 -16:00
（手話通訳付、事前申込不要、途中参加可）

■ otto スペシャル・セッション「あさっての音の発見」

しょうぶ学園のメンバーからなるパーカッショングループ「otto」。小さな6人編成によるアコースティックで不思議な即興セッションの世界をお楽しみください。

日時：2020年2月29日（土）16:00 -17:00
会場：東京都渋谷公園通りギャラリー 交流スペース 定員：40名

■ オープントーク「共生とアート：交わるおどろき」

建築家やエドューケーター、インディペンデント・キュレーターの立場から、アール・ブリュットを含むさまざまな芸術表現に携わってきた方々を招き、アートを通じた共生のあり方を更新する方法について考えます。

日時：2020年3月28日（土）14:00 -16:00
会場：東京都渋谷公園通りギャラリー 交流スペース 定員：35名
（手話通訳付、事前申込不要、先着順）

登壇者：家成俊勝（dot architects 共同主宰／京都造形芸術大学 教授）

野崎美樹（NPO 法人スローレーベル プロジェクトマネージャー）

ロジャー・マクドナルド（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT] 副ディレクター）

※詳細は当ギャラリーWebサイトに12月中旬頃に掲載します。

お問合せ

東京都現代美術館 文化共生課文化共生係

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1

Tel : 03-5245-1153（直通）

Fax : 03-5245-1141

E-mail : inclusion@mot-art.jp

URL : <https://inclusion-art.jp>

移転に伴う変更（12月以降）

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-19-8

渋谷区立勤労福祉会館内

Tel : 03-5422-3151

Fax : 03-3464-5241



■作家プロフィール

① 小笹 逸男（おざさ いつお） 1924 - 2012

京都府生まれ。1962年より亀岡市の「みずのき寮」（現みずのき）に入寮。施設内の絵画教室に参加し、動物をモチーフとした絵画作品を中心に多く制作する。ローザンヌのアール・ブリュット・コレクションに5点の作品が収蔵されている。

② 小林 勇輝（こばやし ゆうき） 1990 -

東京都生まれ。2016年、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート、パフォーマンス科修了。自身の身体を中性的な立体物として用いたパフォーマンスや絵画作品などを通して、社会における固定概念に疑問を投げかける。

③ 舛次 崇（しゅうじ たかし） 1974 -

兵庫県生まれ。1993年頃から西宮市の「すずかけ絵画クラブ」で作品制作に取り組む。植物や日用品、動物をモチーフとした独自の形態、配色のパステル画を描く。作品はローザンヌのアール・ブリュット・コレクションなどに収蔵。

④ 末永 史尚（すえなが ふみなお） 1974 -

山口県生まれ。1999年、東京造形大学造形学部美術学科卒業。日常的に目にしたり、展示空間に関わる既存のものを素材とし、自身の視覚が反応できるものを繰り返し探りながら、絵画や立体の作品を制作する。

⑤ HIROYUKI DOI（土井 宏之（どい ひろゆき）） 1946 -

愛知県生まれ。独学で作品制作を始め、1985年頃からは和紙に細かなまるを描くことにより、緻密でありながら力強いドローイングを制作。欧米にて活躍中。作品はアメリカン・フォーク・アート・ミュージアムに収蔵。

⑥ 塔本 シスコ（とうもと しすこ） 1913 - 2005

熊本県生まれ。53歳のとき、画家を志した長男が家に残していった油絵具と不要になったカンヴァスを使って、絵を描き始める。子どもの頃の思い出や身のまわりの出来事、自然を鮮やかな色彩で描き出す。

⑦ 西岡 弘治（にしおか こうじ） 1970 -

大阪府生まれ。大阪市の「アトリエコーナス」で、2005年より作品制作を始める。主に楽譜をモチーフとし、伸びやかでリズムに富む描線のドローイングを制作。作品はフランスのabcdコレクションやイギリスのアウトサイド・インなどに収蔵。

⑧ nui project（ヌイ・プロジェクト）

鹿児島市にある「しょうぶ学園」の「布の工房」で作業を行う縫い手たち。1992年より本格的に活動を開始。重ね縫いの糸目を自由自在に踊らせた独創的な作品を生み出す。2000年頃より国内外で発表を行う。



⑨ 藤岡 祐機（ふじおか ゆうき） 1993-

熊本県生まれ。ハサミを用いた切り紙の作品を制作。幾何学形に切り落とした紙のコラージュから始まり、現在は1mmにも満たない間隔でまきひげのように紙を切る作品へと展開。近年は海外展にも参加。

⑩ デニス・ホリングスワース（Dennis Hollingsworth） 1956-

スペイン、マドリード生まれ。1991年、クレアモント大学院大学修了。「wet on wet」という独自の手法や、厚紙で自作した道具などを用いて制作される作品は、物質の特性を引き出し、多様なテクスチャを生み出す。

⑪ 松岡 亮（まつおか りょう） 1974-

東京都生まれ。絵筆を使わず、指で紙や板と絵具の感触を確かめるように描かれる絵画作品をはじめ、ミシンを自在に走らせた鮮やかな色彩の刺繍、インスタレーション、壁画など、幅広い表現を手がけ、国内外の展覧会に多数参加。

⑫ 丸木 スマ（まるき すま） 1875-1956

※会期中、丸木スマの作品は展示替えがあります。

広島県生まれ。70歳を過ぎてから絵画を描き始め、1951年に初めて日本美術院展に入選。以後、表情豊かな動物や、生命力に満ちた花、野菜など、700点を超える膨大な数の作品を残した。

⑬ 山本 純子（やまもと じゅんこ） 1973-

兵庫県生まれ。台所用品や食べ物、工具など日常の中にある身近なものをモチーフに、フェルトとさまざまな布を組み合わせたアップリケの作品を制作。ミュージアム・オブ・エブリシングなどに作品が収蔵される。



【同時開催】

交流プログラム

ひらく、つながる

ライブ・コンサート、ライブ・ペインティング、パフォーマンス、展覧会と連動したアーティスト・トークなど、アーティストと来場者が関わり合い、呼応しながら創り出される交流プログラムを展開します。グランドオープン記念事業として、音楽家・アーティストの蓮沼執太、展覧会出展作家の小林勇輝、松岡亮によるパフォーマンス等のプログラムを予定しています。

プログラム概要

出演者：蓮沼執太、小林勇輝、松岡亮

会期：2020年2月－3月

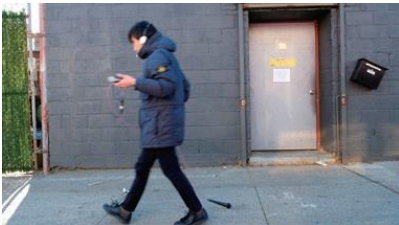
会場：東京都渋谷公園通りギャラリー 交流スペース

参加料：無料

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 東京都渋谷公園通りギャラリー

※詳細は当ギャラリーWebサイトに12月中旬頃に掲載します。

■出演者プロフィール



蓮沼執太 《Walking Score in New York》2018年 写真：内田裕一

蓮沼 執太 (はすぬま しゅうた) 1983-

東京都生まれ。蓮沼執太フィル、各地でのコンサート公演をはじめ、舞台、映画等への楽曲提供、環境音や電子音を中心としたサウンドワークから音楽プロデュースなど幅広い制作活動を行う。

② 小林 勇輝 ① 松岡 亮 (展覧会作家プロフィールに掲載)



[取材・画像使用申込み書]

(公財) 東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課 行

Fax : 03-5245-1141 (11月未迄) 03-3464-5241 (12月以降) E-mail : inclusion@mot-art.jp

取材および広報用画像について

本展覧会の取材を希望される場合は、本紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはEメールにてお申し込みください。また、本展覧会の広報用素材として13点の画像をご用意しております。希望されます場合は、画像番号をご記入の上、お申し込みください。

取材希望

画像使用希望

取材希望日時 :

使用希望画像 :

貴社名 :

貴媒体名 :

種別 : TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他
○印をお付けください

発行・放送予定日 :

ご担当者名 :

Eメールアドレス :

ご住所 : (〒)

お電話番号 :

FAX :

その他 :

なお、取材および写真使用に際しましては、以下のことをお願いしております。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ず表記してください。
- ② 作品画像のトリミング、文字載せはご遠慮ください。
- ③ 本展を紹介いただく場合には、恐れ入りますが掲載誌(紙)、DVD、CD等をご提供ください。



広報用画像一覧（出展作とは異なる場合があります。）



①



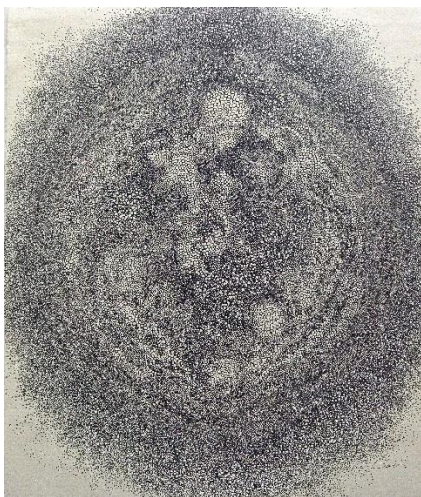
②



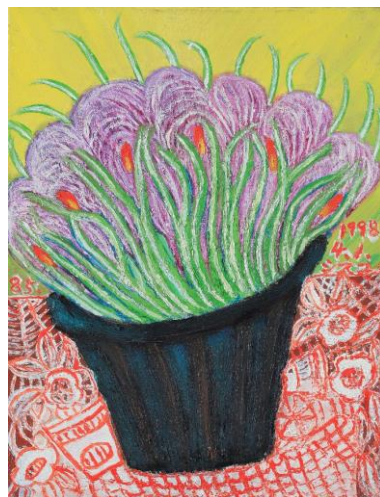
③



④



⑤



⑥



⑦

- ① 小笹逸男《私の友達》 1985-1989年頃 みずのき美術館所蔵 提供：みずのき美術館
- ② 小林勇輝《Chaotic Love》 2017年 作家蔵
- ③ 舛次崇《パンチとドライバーとノコギリとパンチ》 2006年 日本財団所蔵 撮影：大西暢夫
- ④ 末永史尚《巻ロープ》 2015年 個人蔵 © Fuminao SUENAGA Courtesy of Maki Fine Arts
- ⑤ HIROYUKI DOI《Peace》 2010年 Courtesy of Yoshiko Otsuka Fine Art International, Tokyo
- ⑥ 塔本シスコ《花ノ名前はクロカスデス》 1998年 個人蔵 撮影：塩田洋 提供：アートオフィス塔本
- ⑦ 西岡弘治《楽譜 SONATINE》 制作年不明 © atelierCORNERS



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬

⑧ 野間口桂介《無題》 2012-2016年 © 2016年 SHOBU STYLE

⑨ 藤岡祐機《無題》 2004年 作家蔵

⑩ デニス・ホリングスワース《Whilst Whitman》 1997年 Photo: Ikuhiro Watanabe © Dennis Hollingsworth
Courtesy of Tomio Koyama Gallery

⑪ 松岡亮「Tibet Festival 2019」 展示風景

⑫ 丸木スマ《梅が咲く》 1952年 原爆の図丸木美術館所蔵

⑬ 山本純子《無題 (おたま、急須、やかんなど)》 1990年頃 © Junko Yamamoto Courtesy of Yukiko Koide
Presents

お問合せ／お申込み

東京都現代美術館 文化共生課文化共生係

(11月末迄) Tel : 03-5245-1153 (直通) Fax : 03-5245-1141

(12月以降) Tel : 03-5422-3151 Fax : 03-3464-5241

E-mail : inclusion@mot-art.jp